

むにもいとよろしき稱呼なるをさる事のきこえぬは、くちをしき事也、朝夕にめなれ口なれためる唐詩選などをもみよ、王大、高五とあるは輩行、高都護、杜少府などあるは官名にて、今時の名ともはらおなじきを、唐人の名のるは雅にて、こゝにて物するは俗なるやうあらましや、今時の漢文をみるに、稱呼の妄なる事いふべくもあらず。

〔善庵隨筆〕漢土ニ小字トイフモノアリ、今古奇觀ニ、小名宋金郎、官名宋金トアリ、官名トハ、公邊ニ用フル表向ノ名ニテ、實名トイフガ如シ、小名トハ、民間ニ呼習ハシタル平生ノ通名ナリ、コレ證トスルニ足ルヤウナレドモ、他書ニ載スル小名小字ハ、大抵幼少ノ時ノ子供ノ名ナリ、又侍兒小名録ニ載スル小名ハ、此方ノ人、タトヘバ家ニ居ルトキノ名、女子ナレバ阿松トカ、阿梅トカイヘルガ、諸侯方ニ奉公スレバ、別ニ名ヲ賜テ、尾上トカ、岩藤トカ改ム、ソノ奉公中ノ名ヲ小字トイフ、カク一定セザレバ、一ヲ取テ證トシ用ヒガタシ、

〔類聚名物考 姓氏 八〕名字 な あざな

およそ古人の名、今の心よりは、わきまへがたきもの多ければ、よみうる事さへかたきをや、されば字合を乃支阿比と訓が如く、舍人親王を伊徹比止と申が如き、みなよくも思はぬ、後世の心より出し、僻よみなり、又訓にてのみは訓ざるも有、徳足の如きは、止古多利と音訓相交へてよむなり、この類ひは長良冬良の如き、良をば音にいふ、一條禪閣兼良公をば、加禰羅と訓を、加禰與之ともよむべきよしもいへり、これらよく思ひわきまへでは、僻事のまじれるものなれば、書このむ人は、必おろそかにはすべからぬ事ぞかし。

〔類聚名物考 姓氏 八〕別名 一名

これは名二ツ有をいふ、たとへば同人異名有人あり、又は名をかへし人を物にまゐりたるに、二所三所に見えしに、二三の名有て、その人は異ならざるも有、又は傳への異にして二名有もある